

理財局特別情報（第二十六號）



（昭和二十一年七月十八日）
理財局

ハンガリーの悪性インフレーション

目次

ハンガリーの悪性インフレーションの進行状況	一
悪性インフレーションの原因	一
悪性インフレーションの進行状況	一
政府の對策	六
現在の状況と今後の見透	一〇
ハンガリーの悪性インフレーションと我國のインフレーション	一三



ハンガリーの悪性インフレーション

一、去る七月十二日、ハンガリー政府は遂にペンゴ貨の流通を禁止した。第一次大戦後のドイツ以上の史上未曾有の激々たるインフレの激化は政府が新通貨單位の採用、經濟の安定への着手を公約した八月一日まで待ち切れず遂に收拾不能に陥つたのである。

二、悪性インフレーションの原因（毎日七。一六、時率一。二二。二三）

(一) その根本的原因は長期の戦争に基くハンガリー經濟の破壊である。

(1) ハンガリー國內に於ける長期に亘る獨ソの交戦によりハンガリー經濟は麻痺的狀態に陥つた。

(2) 敗退するドイツ軍が焦土戰術を採用した上に多くの物資、資材、生産設備、更に國立銀行保有金（約三萬五千キログラムと評價される）までドイツ國內に運び去つたことにより一層廣範圍のものとなり、

(3) またソ聯軍進駐と共にハンガリーの政治指導層が共產黨系の

入々を中心し、實情さかけはなれた社會經濟改革理論にさらはれて戦後の回復を却つておくらせたこともこれを助長した。

(一) この結果は生産力の急激な低下、物産供給量の激減となつて物の面からインフレを激發した。即ち

(1) 農業生産は前年に比し小麦の七割六分減を最高、馬鈴薯の一

割二分減を最低に平均して半減した。その原因は、

(イ) 戦争に因る農具、家畜、勞力の不足

(ロ) 旱天

(ハ) あまりに急激に行はれた土地改革

(ニ) 鐵工業の生産力も生産設備の廣汎な破壊の爲激減し、農産物の激減と相俟つて國民生活の維持に必要を物産の供給量は極

度に削減された。

(三) 戦争により殆んど停止に近い迄に破壊せられた輸送機能はインフ

フレを促進した。即ち

(1) この爲農村と都會の物産交流が全く停頓し、その結果物價高

と闇取引が横行し通貨に對する信用を低下させてインフレを

激化した。

(2) この輸送上の混乱は行政機關の統制力を更に片端にし、物資供給の激減に加へて配給と價格の統制組織は無能であつた。
更(四)に次の二つの要因がインフレを激成した。

(1) 激減した戦後生産力をもつてソ聯やユーゴースラヴィヤに對する賠償金及びソ聯軍駐屯費を負担しなければならぬ。

(イ) ソ聯、チエツコスロバキヤ及びユーゴースラヴィヤとハンガリーとの賠償協定によれば(時電四・一二)

(a) ハンガリーは物資及び勢力の形に於て對ソ聯二億弗、對ユーゴースラヴィヤ七千萬弗、對チエツコ三千萬弗賠償せねばならぬ。

(b) 六ヶ年の年賦支拂にて、支拂が遲滞した場合は遲滞した分に對し月五分の利息を支拂ふ。

(ロ) その後インフレ激化の情勢に値みハンガリー首相の懇請により對ソ賠償期間は六ヶ年より八ヶ年に延長された。(短中波四・一九)

(2) ソ聯軍の進駐と共に政治の指導權が親ソ的分子によつて占められ、ハンガリーがソ聯の勢力圏に一應意かれたことが、断

言切り抜きの爲の有力手段たる米英及び蘭歐諸國よりの援助

を妨げ且つおくらせる結果となつた。

④この激な困難な政治経済情勢に直面したハンガリー政府は物産の生産と配給面に於ける急ひ切つた政策をさる代りに結核紙幣の増發によつて當面を彌補する最も妥易な方法に從つたことが悉刷を激化した。

三、現在インフレーションの運行状態（毎月七・一六、時經一・二三、六・一二、六・一九、七・九、外債六・四）

(一) 通貨流通高

通貨流通高 一九三九年末を100とする指數

年	月	通貨流通高	指數
一九三九年	十二月末	百九十七	100
一九四〇年	十一月末	一九六	109.5
一九四〇年	九月末	四一九	133
	十月末	一〇七	107.4
	十一月末	三五五	136.1
	十二月末	七六五	178.6

一九四六年	
一月末	一、六四六、〇〇〇
二月末	英二三八、〇〇〇
三月末	三四〇、〇〇〇
四月末	四三四、〇〇〇
五月末	六五五、八九〇
六月七日	五〇一、三二四
一月末	一六八八二〇
二月末	五三七二三〇
三月末	五四八七一七六
四月末	四四五一二七七六
五月末	六七二七〇一九六
六月七日	五一四一七七九四七三六

□ 本年に入つてから高嶺新武彦の發行に應じてその對外價值の下落状態を米拂との比較に於て見れば次の通りである。

新發行 發行期日	億米	億米	億米	億米
五月一四日	一〇〇〇	二	二、五〇〇	〇
六月一二日	一〇〇〇	二〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
六月一五日	一〇〇〇〇	二〇〇〇	二八、〇〇〇	三、五〇〇
六月二四日	一〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇	三八、〇〇〇	二六
七月四日	一〇〇〇〇〇〇	二〇、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一〇

尙報道によれば最近十兆光(零が二十個付く)ペンゴ紙が發行されたといふ。

五

註、

(1) Aは前の對米爲替相場(一弗一五ペング)により換算したる

米貨價值を示す。

(2) Bは暴落しつつあるペング對米貨一弗の交換比率を示す。

(3) CはBの比率により換算したる各新銀行券の米貨價值を示す。

四 政府の對策 (毎日七・一六)

(一) 通貨政策

(1) 政府發行印紙貼布紙幣制度

(a) 本年一月六日紙幣に對し額面價值の四分の三に相當する政

府發行印紙を添附することによつて結局紙幣流通額の四分

の三に相當する購買力を國庫に吸收する措置を實施した。

(b) 然しこの効果は一時的に通貨價值の下落を喰ひ止めたに過

ぎない。

(2) 租稅ペング制の採用

(a) 貨幣價值の暴落に伴ふ國庫租稅收入の激減を防止するため

本年一月一日以來租稅ペングを採用した。

(b) 本年一月一日現在に於て一租稅ペングを紙幣ペングと等

價とし、

(b) 象牙の實際價值の下落に應じ毎日租税ペンゴの紙幣ペンゴに對する交換率を公表し。

(c) 租税徴收に際しては指定納付期日の交換率に基き租税ペンゴ相當額の紙幣ペンゴによつて納税せしめる。

(d) 本制度はもとよりインフレそのものを防止する根本的な對策とはなく、インフレの在庫その他に及ぼす影響を緩和しようとするに止まるものであつた。

(2) 租税ペンゴ紙幣の公表換算率

本年一月一日—一月末	一對一
二月末	一對十
四月末	一對五百七十
五月初	一對二千九百
六月七日	一對八十六萬

(3) ペンゴ紙幣の流通禁止

(i) ペンゴ紙幣と租税ペンゴとの價值の開きが増大しインフレが急激に激化したため、マンガリ—競相は七月十二日ペンゴ紙幣

の流通を禁止し租税ベンゴ一本とした。

(四) 租税ベンゴは物價暴落その他の經濟困難にその價値維持を
持ち現存六百五十萬租税ベンゴとなつてゐる。

(五) 八月一日實施豫定の新通貨制度（結局八月一日迄まゝ今同
のベンゴ貨流通禁止となつた。）

(六) 新通貨單位の採用

新通貨の單位は「コロリント」で一キログラムの純金を一
萬コロリント、一菲を九・八コロリントとする。

(七) 先づ最初二千二百萬乃至二千四百萬コロリントを發行し、
逐次増發して本年秋頃までに現在流通してゐるベンゴ通貨
に完全に替へる。

(八) その間新舊兩通貨が並行して流通するわけであるが、新舊
通貨の比率はベンゴ貨の價値動搖が激しい爲未決定である。

(九) 新通貨の發行を機會に支那物價を平準すべしコロリント並準す
法定し經濟各部門に亘つて統制を強化し、物價及び物價の
八月一日公定の水準に協力維持安定する。

② 総合的經濟安定

現ナジ政府は次の如き総合的經濟安定策を發表してゐるが、この實行は現在政治上も混沌たる情勢に置かれてゐるハンガリーとして容易ではないと見られてゐる。新通貨制度の採用はこの重要な一部である。

(1) 生産部面

鐵産物、鐵鋼、農産物の増産に主力を集中する。これがため
① 鐵山ボーキサクド、アルミニウム、石油、電力工業の國有化斷行

② 農地改革、協同組合組織を促進する。

③ 熔鐵爐、平爐設備全部の復興を本年末迄に完成して、鐵鋼生産を一九三八年の水準に回復する。

(2) 資材配給統制部面

① 中央資材物價局の創設

② 原料供給の確保を眼目とする運輸計畫の實施

③ 農産物供出の強化

④ 重要食料品、衣類、靴に對する配給割當制の實施により供給

を確保し關取引を絶滅して物の面からの物價、質銀、通貨の安定を促す。

(3) 財政整理

- (イ) 租税ペンコ制による國庫收支の安定
- (ロ) 石炭、鐵、農業、交通に優先權を與へる資金統制の徹底化
- (ハ) 地方自治團體に對する國庫補助の停止
- (ニ) 官吏の整理縮減（一九三八年の基準に減少）、一部官吏に對する恩給一時停止
- (ホ) 所得税の累進率擴大
- (ヘ) 資本の外國逃避防止を爲替恩惠の取締り強化
- (ト) 一九三八年以來民間專業會社に交附された國庫融通資金の回收

(4) 新通貨制度の實施

三 經濟狀態の現状と今後の見透（時經六。一二、毎日七。一六）
政府は最近における財政經濟狀態を次の如く報告し一般的に事態は回復に向つてゐると今後の見透しについて樂觀的である。

(1) 經濟復興は除々ながら進捗して來た。例へば、

(H) 石炭（濶炭を含む月平均）

一九三八年 七十三萬四千トン

一九四五年上半期 三十五萬四千トン

一九四五年第一
三四半期 三十九萬トン

一九四五年第二
四四半期 四十三萬トン

一九四六年四月 五十萬トン

(I) 重工業及び纖維工業の生産は最近毎月三割乃至五割方ずつ増加してゐる。

(J) 鐵業生産高は獨軍から解放された當時戰前水準の五割だつたが今日では七割まで回復してゐる。

(K) 耕地面積の大部分、即ち一九三八年の九割三分に相當する耕地が耕作され、農産物は前年に比し五割増を豫想されてゐる。農家収益は一九三八年の七割五分乃至八割に達する見込である。

(5) 財政上の均衡回復

(1) 一九四六―七年度の國民所得は戦前水準の七割五分まで回復するものが見込まれてゐる。

(2) 同年度の國庫収入は六億五千萬金ペングの見積りにて、

(3) 支出は賠償金及ソ聯軍進駐費 年約二億四千萬金ペング、通常歳出は財政整理により約五億四千萬金ペングに止めうる。

(4) かくして國庫支出總額七億八千萬金ペングの八割までを國庫収入をもつて賄ふことが出来る見込である。

(4) 外國よりの資産の返却及び援助

(1) ソ聯も自國本位の態度から相當好意ある態度に變つて來てゐる。

(2) ナジ首相の訪米により、米國は左の援助を約束した。

(a) ドイツ軍が敗退の際もち去り塊在米軍管轄下にあるハンガリー國立銀行の所有金二億七千二百八十三万ロダラムの返還、その他ドイツに持ち込まれたハンガリー資産の返却、
(b) 在米凍結ハンガリー資金の解放

(ハ) スイスに送還してあるハンガリーの金約二千萬スイス・フランが返還される。

(ニ) その他米英の經濟援助及びソ聯、バルカン以外の諸國との交易も逐次積極化する見込みである。

六 ハンガリーの懸念インフレと我國のインフレ

ハンガリーの懸念インフレの原因を検討するとそれは我國の現状に比較して極めて示唆深いものがある。

(一) ハンガリーの懸念インフレが長期的戦争による經濟の崩壊、懸念の急激な減退、占領地を中心とする赤字財政及び通貨の注進を原因とし、殊に食糧飢饉インフレの豪相を呈してあることは、我國の現状に極めて類似してゐる。

(二) ハンガリーの懸念インフレが急激の加速後で達成し始めたのは本年初頭以降であつて、通貨が大戦戦前の四十六倍に達した時をピークとする。我國の七月十三日現在の日紙歩送行高四百六十二億圓は戦前の約三十二倍である。

(三) ハンガリーの事例は生産の増大なくして通貨政策のみによるインフレ政策が成功しないことを明瞭に物語つてゐる。

(四) ハンガリーの場合は通貨の對外價値の基準として對米爲替相場がある。

(1) 又諸外國よりの經濟的援助を受け得る可能性があるが、但し現在迄の處外國よりの援助はない。

(2) 援助について英米とソ聯との間の政治關係が影響してゐるため近い將來大きな援助を期待し難く此の狀況は我國に似てゐる。

(3) ハンガリーに於て本年に入つてからのインフレの激化が石炭その他の生産増加と歩調を共にしてゐる點が注目される。それは經濟活動が痲痺状態を脱する聯國がインフレにさつて最も危險な時期であることを實證するものであり、我國のインフレについても今後の生産の動向が決定的である。